

Indonesia Bi-Weekly

2012年11月7日号 (対象期間: 2012年10月22日～2012年11月2日)

英国ブルーデンシヤルグループ



インドネシアの株式市場は対象期間中に小幅上昇し、債券市場も上昇(利回りは低下)しました。為替は対主要通貨で円安が進む中、インドネシアルピア高円安となりました。インドネシアの代表的株価指数であるジャカルタ総合指数*は4,300ポイント台の高値圏で推移し、10月30日には銀行の業績などが好感されて過去最高値を更新しました。なお、10月26日のインドネシア株式市場は、祭日のため休場でした。*出所: Indonesia Stock Exchange

【株式市場】ジャカルタ総合指数の推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
上記のグラフは2006年12月28日からの推移を示しています。

【株式市場】

株式市場の個別銘柄をみると、携帯電話など通信事業を展開するインドサットが高騰する一方、同業のXLアジアタが急落しました。両社の業績発表後にアナリストが推奨を変更したことなどが株価に影響しました。インドサットが数年ぶりの高値を更新して対象期間中に12.4%上昇する一方、XLアジアタは10月19日に付けた終値ベースの上場来高値から13.0%下落しました。

【債券市場】

インドネシア10年国債の利回りは、海外ファンドによるインドネシア債券の買いが続く中、5.6%台に低下しました。11月1日に発表された10月の消費者物価指数(CPI)上昇率は前年同月比+4.61%に加速しましたが、海外ファンドによるインドネシア債券の需要は強く、この日インドネシア10年国債の利回りは前日の5.71%から5.68%に低下しました。CPIと金融政策の見通しについては、ニュース欄をご参照ください。

【債券市場】インドネシア自国通貨建て10年国債利回りの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
上記のグラフは2006年12月29日からの推移を示しています。

【為替市場】

インドネシアルピアの対円レートは、10月第1週(10月1日～5日)から先週(10月29日～11月2日)まで5週連続で上昇しました(週末ベース)。対米ドルではこの間小幅のルピア安でしたが、日本銀行の追加金融緩和期待などから対主要通貨で円安が進む中、円安ルピア高となりました。

【ニュース】

2012年1-9月の直接投資、前年同期比27%増

インドネシア投資調整庁は10月22日、2012年1-9月の直接投資額が前年同期比27.0%増の229.9兆ルピア(約1.96兆円)に達したと発表しました。内訳は、海外からの投資額が前年同期比27.3%増の164.2兆ルピア(約1.40兆円)、国内の投資額が同26.3%増の65.7兆ルピア(約0.56兆円)でした。1-9月の直接投資額は年間目標である283.5兆ルピア(約2.42兆円)の80%を既に超えており、インドネシアの高い経済成長を継続させる原動力になると期待されます。インドネシアに対する外国からの直接投資については2ページ目の基礎講座をご参照ください。

経済

【為替市場】インドネシアルピアの対円レートの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
上記のグラフは2006年12月29日からの推移を示しています。(100インドネシアルピア対円レート)

金融

インドネシアの政策金利、当面据置きか

11月1日に発表された10月のCPI上昇率は前年同月比+4.61%で、9月の同+4.31%を上回りました。今年になってからのインドネシアルピア安が輸入物価を押し上げたことなどが影響したとみられています。CPI上昇率は10月に加速したものの、2012年と2013年のインフレ目標である3.5%～5.5%の範囲内に収まっています。一方、インドネシア経済は堅調な内需の伸びに支えられて6%台の経済成長を継続するとみられており、インドネシア中央銀行は現在5.75%の政策金利(銀行間取引における目標誘導金利)を当面据置きとの見方が優勢です。

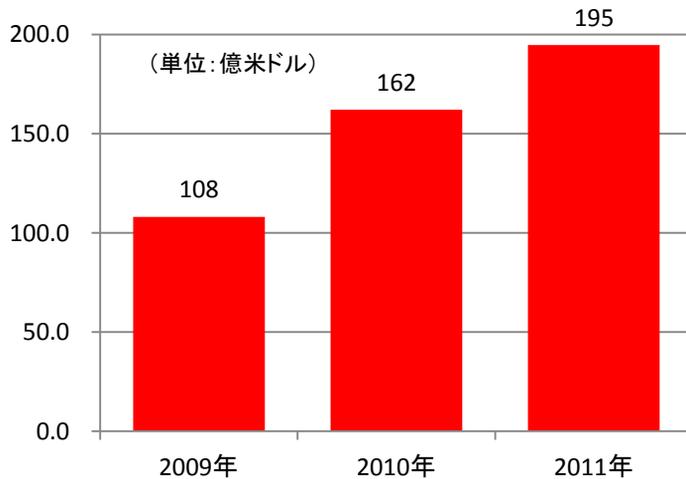
英国ブルーデンシヤル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシヤル・ファイナンシヤル社とはなんら関係がありません。

2012年11月7日号(対象期間:2012年10月22日~2012年11月2日)

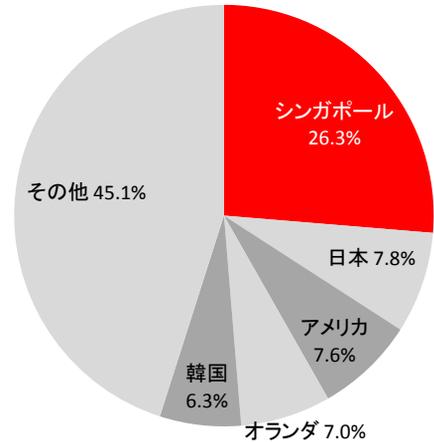
[インドネシア基礎講座] 海外からインドネシアへの直接投資: 近年大幅に増加

海外からインドネシアへの直接投資は(図1)の通り、近年大幅に増加しています。ドルベースでみると、2010年は前年比49.9%、2011年は同20.1%増加しました。2012年の9月までの金額も、ニュース欄で述べたように、インドネシアルピアベースで前年同期比27.3%の増加を示しています。国別にみると(図2)の通り、シンガポールが全体の4分の1強を占めるトップですが、それ以外の国は全体の10%を下回っており、分散されていることがわかります。国際通貨基金(IMF)は、9月に発表したインドネシア経済レポートにおいて、「インドネシアが貿易の相手国及び投資の対象国として魅力を保ち続けることは重要である」と述べており、海外からの投資対象としての魅力を維持することがインドネシア経済の今後の発展において重要との認識を示しています。

(図1) 海外からインドネシアへの直接投資額の推移



(図2) 海外からインドネシアへの直接投資の国別割合 (2011年)



四捨五入の関係上、合計値が100%にならないことがあります。

出所: 上記の図表はいずれも、インドネシア統計局「インドネシア統計年報2012年」のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社について
160年以上の歴史を有する英国の金融サービスグループの一員です。

- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社は、1999年の設立以来、日本の投資家のみなさまに資産運用サービスを提供しています。
- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社は、英国、米国、アジアをはじめとした世界各国で業務を展開しています。
- 最終親会社グループはいち早くアジアの成長性に着目し、アジアでは13の国や地域で生命保険および資産運用を中心に金融サービスを提供しています。最終親会社グループの運用資産総額は、2011年12月末現在、約3,510億ポンド(約42兆円、1ポンド=119.81円)に上ります。



アジア株式・債券の運用拠点であるイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)リミテッドについて

- アジア地域を幅広くカバーする資産運用会社で、インドネシアを含むアジア株式・債券に関する専門知識と豊富な経験を最大限活用した運用を行います。
- 株式運用においてはボトムアップ・アプローチによる銘柄選択で厳選したポートフォリオの構築とリスク管理を重視、債券運用においては金利、クレジット、為替に対してファンダメンタルズ、バリュエーション、テクニカル等複数の視点で分析、ポートフォリオを構築し、トータル・リターンを最大化を目指した運用を行います。

[当資料に関しご留意いただきたい事項]

当資料は、インドネシアの証券市場と政治、経済、文化等にかかる情報提供のみを目的として、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社(「当社」)が株式会社T&C XTF Japanに情報提供を依頼し作成したもので、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。当資料は信頼できると判断された材料を使い、十分な注意を払って作成していますが、当社および株式会社T&C XTF Japanは、必ずしもその正確性、完全性をお約束するものではありません。また、掲載された企業につきましては、あくまで直近のトピックとしてご紹介させていただいたものであり、個別銘柄の売買の推奨を意図したのではなく、当社が運用を行う投資信託への組入れを示唆するものではありません。